

窓口支援事例 【京都府 知財総合支援窓口】

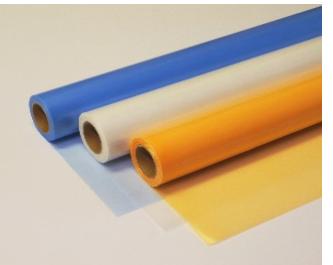
企業情報

株式会社 色素オオタ・オータス

| | | | |
|------------|---|-----|----------|
| 所在地 | 京都府京都市 | | |
| ホームページ URL | http://www.ohtas.co.jp/ | | |
| 設立年 | 1989 年 | 業種 | 製造業 |
| 従業員数 | 5人 | 資本金 | 1,000 万円 |

企業概要

当社は、昭和 23 年、京都市内で、着物を染める染料・顔料の加工・販売を行う企業として創業しました。しかし、呉服業界の縮小と共に、新たな事業にチャレンジしていく必要がありました。そこで、お客様の困り事・悩み事に耳を傾けることにより、自社製品の幅を広げるように取り組んできました。例えば、「出初式での放水に着色したい」との消防署の相談、「位牌の戒名の色あせを防ぎたい」との葬祭業者の悩み事などに対して、これまでの染料・顔料の加工のノウハウを活かして、数多くの新しいインクを提案し、社会で広く受け入れられてきました。



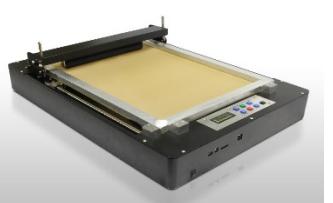
自社の強み

その業界で当たり前に行われていることであっても、視点を変えると様々な強みや価値が見えてきます。当社は、お客様の要望に応じて、自社技術やノウハウを転換して他業界で活用することで、新たな用途の発掘につなげています。最近では、工業製品に使用されるシルクスクリーン印刷において、従来の乳剤を使用する製版方法ではなく、フィルムを溶解して製版する感熱製版に着目し、今まで使用できなかった油性インクでも使用できる極薄の感熱製版フィルムを生み出しました。これにより、感熱製版技術の工業製品への活用の幅が広がりました。



一押し商品

当社は、感熱製版フィルムだけでなく、デジタル製版機の改良にも注力しております。現在は T シャツやヘルメットなどの安全用品などを印刷しておられる企業が主なお客様となります。今後は LSI など電子部品の基盤印刷の需要増加を視野に入れ、より高精度な製版が可能な製版機及び、フィルムの改良を行い、ますます多様化する工業印刷のニーズに応えようと考えています。60 年以上、インク一筋に、特許、ノウハウで蓄積してきたコア技術を磨き高め、お客様の課題解決に徹することで、新たな事業展開とそれによる社会への貢献を果たして参ります。



知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

同社は、過去に、感熱製版フィルムに関する特許を数件取得されておりましたが、今回開発した感熱製版フィルムに対して大手企業から取引の打診があり、その際に同窓口の知財対策は大丈夫かとの問い合わせがあったため、その製品の自社特許による保護及び他社特許対策について明確にしておく必要があると考えられました。

最初の相談概要

「今回開発した、極薄でどんなインクでも使用できる感熱製版フィルムには、特許と、誰にも真似できないノウハウとが詰まっていると思うので、自社技術が適切に産業財産権で保護できているか」との相談を受け、専門家（弁理士）と共同で、今後の製品も含め、特許及びノウハウによるオープン・クローズ戦略の検討を支援しました。

その後の相談概要

専門家（INPIT 知的財産戦略アドバイザー、弁護士）と共同で、誰にも真似できない同社のノウハウを中心として、本社及び遠隔地の工場における営業秘密の管理体制についてアドバイスし、さらに、大手企業との取引に際し、秘密保持契約書や基本取引契約書など各種契約書の内容確認の支援を行いました。

窓口を活用して変わったところ

同社社長は、ご自身が長年蓄積してきたノウハウは誰にも真似できないと強い信念を持っており、一方で必要な技術は特許を取得されておりましたが、専門家のアドバイスなどにより、オープン・クローズ戦略の必要性を明確にした上で、更なる独自技術の開発で、お客様の課題解決に意欲を燃やしておられます。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

常々、お客様の困り事に耳を傾ける精神で自社商品の幅を広げることを考えています。そのため、今回の新規事業は、産業財産権、営業秘密、契約などの専門家から適切なアドバイスが得られたので、頭の中でもやもやしていたことがスッキリし、非常に助かりました。今後の新製品開発にも活かしたいと思います。ぜひ、窓口を利用されることをお勧めします。

窓口担当者から一言 （氏名：九鬼 正雄）



同社の技術は、長年にわたる社長の経験から、真似のできないノウハウが詰まっています。今後もこの技術をベースにして事業の展開を考えていますので、オープン・クローズ戦略を中心にして、更なる適切な支援を継続して行っていきたいと思います。